



「楽器クリーン活動中！！」

バプテテスト心身障害児(者)を守る会

# 愛の手を

第213号

発行責任者  
 社会福祉法人 バプテテスト心身  
 障害児(者)を守る会  
 重症心身障害施設 久山療育園  
 重症児者医療療育センター  
 理事長 宮崎 信義  
 編集責任者 鍋山 泰三  
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
 ☎(092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

新聞記者になって35年になる。どんな特ダネを書いてきましたかと問われることがあるが、振り返って思い浮かぶのは抜いた抜かれた切った張ったの戦いではない。

水難事故で亡くなりブルーシートに包まれ運ばれていく父親を、傍らで見つめていた小学生の男の子。“植物状態”と診断されて10年以上伏す夫に、うちわで風を送りながら今日あった出来事を語り伝えていた80代の妻。自ら命を絶った家族の心の苦しみにどうして気づいてあげられなかったのかと、時を経て癒えぬ痛みを嗚咽する人。何年ものつらい治療に望みを託し、ついに死が迫って病院から自宅へ戻り、台所の椅子に腰かけて、幼い子を残してこの世を去る耐えがたさ、いつの日か私がいなくなることが当たり前になって、誰も思い出しにくくも抑えきれない恐怖を吐露した女性……。鮮やかなスクープよりも、記事の背後にある日常の光景こそ心に深く刻まれて

## 「希望を運ぶ人たちを見る」

評議員／西日本新聞社取締役編集局長 田川 大介

いる。もつとも、言葉を失い立ち尽くすしかないような事件や災害の現場にも身を置いてきた。

西南学院高校に入学して聖書に出会って43年になる。仕事をするなかで折々に思い起こすのは、神学者ルドルフ・ポールの言葉だった。「私の先生が、説教準備のために大切なこととして教えたのは、聖書を新聞の傍らに置くようにということでした……新聞のあまり喜ばないニュースを、よい知らせの傍らに並べて読むのです……今日、当然なすべきことは、テレビや新聞と向かい合っているところで、賛美を学ぶということですよ」(『説教黙想集集成3』編訳 加藤常昭、教文館)。どんなに不条理と思える出来事に直面しても、記事の結論が絶望であってはならない、そこに存在する希望を見いだせと自らに問い、後輩に伝えてきた。

安倍晋三元首相の銃撃事件を受けて、教義の洗脳、恐怖を与えての献金強要、社会からの分断、政治への巧みな侵食など、カルトの断面が目が向くようになってきた。伝統宗教といわれるキリスト教会も、人ごとだと言いつけることができるだろう。聖書に書かれていることは文字通りすべて正しい、あなたは信じて信じないか、救いか滅びかと迫るようなことがあるとすれば、善意どころか暴力にほかならない。信じて先立って救いが存在することは聖

書に記されている。

4人の男が体の麻痺した人をイエスのもとへ担いで運んだ物語(マルコによる福音書2章11-12節)は特に印象深い。近寄ることのできないほど大勢の人が集まった家の屋根を剥がして穴をあけ、病む人を寝かせたままつり下ろした。「子よ、あなたの罪は赦された」と告げたイエスは、病む人自身の信仰ではなく伴ってきた男たちの信仰をよみした、と記事は伝える。病んで弱った人の痛み悲しみに深く同情し、できることをした信仰を見て、イエスは病む人の罪の赦し、すなわち存在そのものの肯定を宣言したという。「その人は起きて、すぐに床を担いで、皆の見ている前を出て行った」。偏見や孤独から解き放たれて、ともに生きる社会の一員となったことを伝えていくように思う。久山療育園で開園以来、繰り返されてきた奇跡にほかならない。

奇跡とは「奇(くす)し跡」と書くように、目の前で驚くことが起きるといふよりも、後になって気付くものなのです。20年前、私の所属する西南学院バプテテスト教会の説教で語ったのは川野直人初代理事長だった。その礼拝で献児式に臨んだ次女は福岡女学院大学で教育・保育を学んでおり、この秋、久山療育園で実習に挑む。理論や技術はもとより、支える人たちの思いと行いこそ見てほしいと願っている。

## 理念と展望

## 重症児者の光に導かれる事業体として

理事長 宮崎信義

## はじめに

近江学園・びわこ学園の創立者であられた糸賀一雄先生は、障がい児者医療福祉のキーワードとなった「この子らに世の光をではなく、この子らを世の光に」と言われました。この言葉はノーマライゼーションの極致とも言えます。強者が弱者に、持てる者が持たざる者に施すのではなく、「障がいがあってもなくても、社会の中で等しい存在として尊重されることを示しているもの」と思われます。

機関紙「愛の手を」213号の創立理念と展望の項で、そのテーマを「重症児者の光に導かれる事業体として」とさせて頂いたのも、私達の働きが「重症児者の光に導かれる」とものであることを再認識したいと思っただけです。

## 「創立理念と歴史に学ぶ重症心身障害医療」

久山療育園は聖書の基盤の上に1976年に建てられました。したが、神様が全ての人を「高価で尊い存在」であることを示されたことも相通じ、その

理念が「久山療育園の創立理念」としての言葉として紡ぎだされました。即ち、設立の目的である「重症心身障害児に愛の手を」、運営基本方針「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならない」、療育基本方針「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職的協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならない」、療育基本方針「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職的協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならない」という姿勢を堅持する歴史となつていきます。

「久山療育園の創立理念」から「創立聖句であるコリントの信徒への手紙Ⅱ4章18節」わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」(新共同訳)にしつかりと立ち続けて参りたいと願っています。そこから、47年前に設立された久山療育園の「設立の目的」、「運営基本方針」、「療育基本方針」が提唱され、創立期以来大切に守っています。その理念についての実践について繰り返し述べていますが、次のように

## 「設立の目的」から

## 「療育基本方針」から

在宅及び入所重症児者の必要に聴く診療福祉計画と実践に止めたいと願います。それは事業所の中だけに止まらず、「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」ことから、2015年7月に「在宅支援センター」(在宅支援棟及びグループホーム「重症者ホームひさやま」)の事業開始に導かれました。これは47年前の創立時の「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」ことが結実し、「在宅支援センター」の働きから福祉共同体の実現、地域医療連携へと進められています。

## 「運営基本方針」から

「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならない」という理念から、ミットレーベン・ネットワークや保護者会、地域、諸教会との協働によって園の正しい方向が維持されるものと信じます。

「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職的協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならない」ことから、「久山療育園の療育」の再確認と生命の尊厳を支え、QOL(生活の質・生命の質・人生の質)を重視していくことが多様な職種の働き人に勧められています。

## 「療育病院」としての重症心身障害児(者)施設の役割

①入所(契約入所・短期入所・グループホーム入居)及び通所事業における健康管理・療育(活動やリハビリテーション)・介護・補装具の処方・障害児(者)歯科を実施しています。  
②「主治医(医学的管理)」機関との連携。在宅重症児者では

専門医療機関(大病院、こども病院、国立病院機構等)で医療に特化した働きと連携し、久山療育園でも短期入所病床や空床を利用した医療入院を実施しています。久山療育園も「主治医(医学的管理)」機関となつていきます。

③「家庭医(かかりつけ医)」との連携。家族と共に近隣の日常健康管理を行うホームドクターとの連携を重視しています。  
④感冒などのプライマリケアを実施しています。

## 第47回開園祭のこと

2023年9月23日には、第47回開園祭が祝われました。2020年の新型コロナウイルス感染症のパンデミック以来、限られた参加者による感謝礼拝を基調としています。例えば、感染以前には重症心身障害児(者)やご家族、職員、ボランティアの方々、ミットレーベン・ネットワークの支援者、地域の方々が多勢集まつて、感謝礼拝を献げ、重症児(者)と触れ合い、またバザー(商品や食堂)を楽しんで参りました。その喜ばしい記憶が、感染終息後は再開されることを祈り願っています。

BCP(事業継続計画)策定と実践

BCP策定会議から「BCP策定の構想」について以下のように提示されました。全ての障害福祉サービス等事業者を対象に、災害などの際の業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練(シミュレーション)の実施等が義務化され、経過措置期間として2年あまりの期間が設けられており2024年4月までにBCPの策定をしなければなりません。当センターにおいても、「BCP策定の構想」という議題で、スタートアップミーティングを、センター長を中心に2回実施してきました。その上で、今後のBCP策定に向けて、コアメンバーの策定、役割分担を行いたいと思えます。このメンバーを中心に、まずは「地震(震度5強以上)」における指揮命令・情報収集などの組織系統を明らかにすること、災害時における院内・院外対応の役割の明確化について今後話し合いの機会を持ちます。

BCP策定会議から提示された基本方針は以下の通りです。①利用者、職員の命や生活を保護、維持するための業務を最優先業務とし、その他の業務は必要に応じ当面

縮小ないし休止とする。②通所・外来事業及び障害児等療育支援事業は、被災直後の一定期間は原則として休止とする。業務資源の復旧状況に応じて、順次、早期に再開を目指す。③法人内の施設・事業所間で連携して、非常時優先業務に必要な人員、事業所資機材等の確保、配分にあたる。被災直後、通所・外来の職員は必要に応じて入所職員の応援を行う。④久山町と調整を図り、スペースとマンパワー、資機材などに余力があれば、地域の要配慮者等を受入れることも検討する

おわりに

障害医療福祉制度については、2013年4月1日の「障害者総合支援法」施行、2016年4月1日「障害者差別解消法」施行、2021年6月11日の「医療的ケア児支援法」成立、2023年4月1日「子ども家庭庁」の創設等、激変はありませんが、行政制度の動向を注視しつつ、「重症児(者)と共に」歩みたいと思いま

「第37回バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会職員研修会を振り返って」

久山療育園 理事長 宮崎 信義

第37回バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会(バ福協)職員研修会は、2023年8月7・8日に新型コロナウイルス感染症のパンデミックを避けて、4年ぶりに再開され約50名が参加されました。新たな思いを持って研修会を迎えたことと、担当して下さいましたキリスト者奉仕会に感謝を申し上げます。

カッション発題などが報告・協議されました。いずれも私たちが携わる医療福祉に多くの示唆を与えましたが、思い切った要旨を短縮してご報告致します。

基調講演「ひとりにならない」という救いー困窮孤立の社会を生きるためにー

講師の奥田知志先生は、八幡東キリスト教会牧師でNPO法人「抱撲」を立ち上げホームレス支援の先駆けとして働かれ、今でも多くの関連する事業を運営しておられます。

①抱撲(ほうぼく)「ひとりにならない」という支援で、老子の言葉「素を見し襦を抱き」、襦から示された法人名ということとです。原木(荒木)は無限の可能性を持ちますが、一方で荒木ゆえに傷つく(絆は傷を含む)ことが述べられました。

②なぜ、相談に来ないのか..そもそも知らない..制度は整っているが周知されていない。自己認知不全..他者性がないと自分の状況がわからない。

全てわかっているが..。一番困っている人が来ない。③A子との出会い..抱撲にたどり着く若者たち..A子との出会い(当時20歳、睡眠薬依存)と生い立ちから「生きていくだけ偉い」と思った。A子の口ぐせは「どうでもい命」と妙な確信を持っていた。訪ねてきた母は30分間で帰っていった。

④縦の成長と横の成長..「縦の成長」とは、能力が上がる..評価される軸。「横の成長」とは、周囲の人との繋がりと広がりという意味し、縦の成長の前提となる。

⑤社会的孤立の現状(伴走型支援と問題解決型支援)..「伴走型支援」たとえ解決しなくても伴走する(繋がる)支援、個人の物語への支援。「問題解決型支援」自立支援、最低生活基準の支援、生存権。

⑥希望のまち..抱撲のまち作り..市民の支援で土地を購入し居場所作り。「助けて」と言えるまち。社会復帰..「自己責任」だけでなく、復帰したい社会となるには、家族機能の

社会化。

パネルディスカッション「キリスト教社会福祉の現場から」

「児童福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」を担う4事業体から発題されました。残念ながら大型の台風6号が迫っていましたので分団討議や全体会は行えませんでした。以下に各発題の骨子を紹介致します。

「実践報告I」児童福祉の立場  
「どうなっていくの? これからの保育園」 相愛会

1. 保育園は「儲かる?」  
①認定子ども園ができ、その委託費(＝運営費)の使途制限はない施設が誕生!保育の市場化の地ならしとも思われます。②株式会社立の保育園の増加...人件費比率50%を切る(30歳を超えると勤務しづらい状況)。③保育士不足が深刻な中で、保育の質が担保されない状況も生まれている。④本来、保育園は「儲かる」事業なのか? 儲けの対象として良いのか?  
2. 今、問われていること  
①子どもの権利条約を守ること! 児童は天国に一番近い存在。しかし4~5歳児の保育士配置は30人に保育士1人・更に年少児童では必要な保育士の配置が不足する。②分断では

なく、連帯すること! ③働き方改革だけではなく、働きがい改革を!

3. 相愛会として取り組むこと(伝えていくこと)

①子どもの傍にいてあげること(子どもをまんやかに)・手をつなぐ近さと声のぬくもり。  
②働き人へのリストペクト・働きがい。  
③保護者へのリストペクト・お預かりを通しての連帯。  
④キリスト教保育があること。

「実践報告II」高齢者福祉  
「バプテストホーム」修学院等の拠点

1. 修学院地域包括支援センターの紹介  
・修学院学区・第二学区・総人口123,624人。  
・高齢化率28%、65歳以上6,701人。75歳(後期高齢者)3,657人(54.6%)。  
・要介護認定者1,546人。  
2. 社会の状況について  
・家族に負担をかけて申し訳ないと感じながら生きていくような社会でいいでしょうか?  
・体調を崩した時、介護保険の時間枠だけでの見守りでは心細くないでしょうか? 認知症の親を家に閉じ込めてしまふような地域で良いでしょうか? 等々。

3. 令和7年(2025年)の高齢者の姿ー京都市  
・高齢化率が30%を超える。市民の5人に1人が後期高齢者(75歳以上)となる。一人暮らしの高齢者世帯が増える。認知症高齢者が増加し、87,000人となる。

4. 地域における様々の問題・問題の多様性  
地域住民と話し合う場が必要。今あるものからスタートする。ピンチはチャンス! がん患者の家族支援(がん患者が疎遠であった家族をひとつにする)。震災時、地域が一致団結する等。

「実践報告III」障がい者福祉の立場から久山療育園「重症者ホーム」ひさやま

「重症児者医療療育センター」福祉施設の職員は、利用者の自己決定や権利擁護に寄り添う働きをすることはもちろんですが、利用者だけでなく、職員間でも、相手の権利を侵害しない配慮が求められます。業務内でお互いに意見交換を行い、改善が必要なのが分かった場合、職員間でも率直に問題点を指摘し合い、より良いサービスにつなげていくことが理想です。人ほどのような関係性の中で学んでいくのか、弱い立場に置かれ

ている利用者の権利や尊厳を尊重することのできる職員を、どう育成していくのか、皆さんとご一緒に考えてみたいと思います。

1. 重症者ホームひさやまのこれまでの歩みと課題  
①重症者ホームひさやまのこれまでの歩みと、その中での課題点について:「重症者ホームひさやま」は、2015年7月に、重症心身障害者を受け入れるグループホームとして設立された。設立理念は、久山療育園の理念を継承しつつ、「自己選択」、「自己実現」、「家庭的な雰囲気」、「地域との交流」を大切にしているものとして掲げた。設立当初は、介護包括型グループホームとしてスタートした。2019年4月にホームでも短期入所を実施するようになり、2021年10月には、日中サービスマニエール型のグループホームに移行して、それに合わせ、夜勤を2名体制に変更しました。②入居者の健康管理・福祉の在り方から虐待防止対応ー直接介護事業を運営している、利用者の体に、原因不明の内出血や傷が見られることがあります。入居者の体にできた傷は、その都度、報告するルールになっており、アクシデントとしては「安全対

策委員会」、ホームの運営上の問題としては、「福祉サービスマニエール委員会」、「虐待防止対策委員会」に報告します。

2. 改善に向けた取り組み  
①原因の明確化と再発防止策の徹底。②個別支援計画の確認ー介護の在り方について、愛護的な介護の徹底を確認しました。③入居者一人ひとりの障害特性の理解ー入居者の生活を優先して考えることや、入居者一人ひとりの障害特性を理解した上で関わることを、ホームとしての再発防止策とした。利用者の権利擁護や職員自身の介護方法の振り返りを促すために、研修会を実施することをホーム管理職で企画し検証することも併せて計画しました。④研修会のテーマ。研修会は、1年を通して4回、「呼称の問題」、「アンガーマネジメント」、「虐待防止」、「意思決定支援」の4つのテーマを設定しました。

3. 職員教育の難しさ  
①不適切な介護や事故の再発が報告され、「福祉サービスマニエール委員会」、「虐待防止対策委員会」への報告案件となった。ホーム全職員を対象に、面接が行われ、「不適切な介助」の内容が調査された。②職員面接と介助方法や対応方法の改善

についての指導が実施された。③繰り返し返される事故についてのホームの問題点として、「ホーム職員が一堂に会して話し合うことが難しいこと」、「職員が少ない人数で介護にあたるため、問題点を指摘し合う環境が作りにくいこと」、「外部の目が届きにくいいため、自分流の介護になり易いこと」が挙げられました。職員の退職者も出しました。④管理職の立場から「指導もしますが、管理者の(一方的な)独り善がりになっていないのではないか? 本場に現場の職員の変化につながっているのか? 利用者への権利擁護につながっているのか? ホームの厳しい現実を目の当たりにして、私自身も、一緒に働く職員にどう接したらよいか、どう言葉をかければよいか、迷ってしまうこともありました。

4. 自ら考え、自ら取り組む「みんな笑顔プロジェクト」の取り組み①ホームの主任が交代。それまでの主任は、ホーム立ち上げのときから運営に関わり、ホームを育て、支えてくれた職員で、私自身も信頼していました。新任の主任は、久山療育園に長く勤務し、病棟で主任を務めていた職員です。混乱した

中でホームの管理体制が変わることに、私は不安が無い訳ではなかったのですが、ホームに新しい風を吹き入れてくれています。②2022年度のホーム目標―新任の主任は、2022年度のホーム目標を早々に打ち出しました。「みんな笑顔プロジェクト」…具体的な行動内容と達成しているかどうかを見る評価指針で構成され、ポスター表示になっています。③2023年度も「みんな笑顔プロジェクト」は継続・進化しています。「職員、一人ひとりに考えてほしい」、「考えよう!」と投げかけるメッセージに溢れています。しかも、分かりやすく、いつでも、自然に意識できるように工夫されています。④ホームの雰囲気の変化…最も、顕著なのが、2023年度「お食事向上委員会」です。今日の研修会に一緒に参加しているホーム職員が委員長を担っています。外部の業者に納入してもらった食材に加えて、手作りメニューによって食事の質を向上させよう、また、食事にかかるとコストも抑えながら実現しようというものです。⑤施設長としての気付き…管理者が、正解を提示し、押し付けるのではなく、なぜ、その

のことが必要なのか、職員一人ひとりが考えられるようになること。そのことが、職場を活性化し、職員を育てていくことにつながるのだということ。利用者の権利擁護や個人の尊厳を守ることも同じことが言えるかもしれません。福祉施設職員だから守るのではなく、個人の尊厳が守られる世界は、こんなにも明るく、すばらしいものだということ。職員一人ひとりが理解して働くこと。久山療育園本体からやってきた主任さんに、気づきを与えられています。それは、言い換えれば、久山療育園が培ってきた理念の実践が息づいている証拠だと思います。

#### 「実践報告Ⅳ」障がい者福祉

##### 「理念の継承と人材育成・確保」キリスト者奉仕会

1. キリスト者奉仕会の理念(要旨) ①「障がい」は尊厳ある人格の一つの個性です。②「障害」がある人もない人も共に地域社会の中で、自分らしく当たり前に生活していける社会の実現に向けた拠点として活動していきます。③社会の中で差別・抑圧され、弱い立場に立たされている方々と出会うことを基本とし、その

方々の生の声に耳を傾け、そこから学ぶ視点を大切にします。④「障害」のある人たちの基本的な人権を尊重することを第一とし、そこで働く者も含めて共に生き活きとできる場であることを目指します。

2. 理念の継承と人材育成 ①法人の階層別研修。・人職員研修(3日間)：年に2〜3回。・全職員研修(主に虐待防止研修)―パート職員も含む。・常勤職員研修(月給嘱託職員も含む)。・責任者研修(事業責任者以上)。・管理職研修(統括責任者以上)。②次世代のリーダー育成。③人材の確保。

#### おわりに

2020年初頭から続いている、新型コロナウイルス感染症のパンデミック、そしてウクライナ侵攻という「危機の時代」にあつて、「私たちバプテスト社会福祉事業団体連絡協議会」に連なる事業体は、3年ぶりに職員間で交流し学び合う「夏期職員研修会」に参加することが出来ました。

研修会のテーマ「キリスト教社会福祉が目指すもの」としての尊厳を大切にしている社会とは「」について、分かち合い、学び合える幸いを主に感謝致します。その導きによって先



病気のからだから  
第17回

## 「肺がん治療の2つの進歩」

センター長／理事 岩 永 知 秋

### ■これまでの肺がんの治療

肺がんは日本において、男性では死亡数の第一位、女性でも第二位を占めるようになってきました。肺がんはがんの中でも非常に多いがんというだけでなく、すい臓がんと並んで予後が悪い(生存期間が短いことです)ことが知られています。

肺がんの治療には手術、放射線治療と並んで、薬物治療があります。肺がんは小細胞がん、非小細胞がん(小細胞がん以外のがん)・具体的には腺がん、扁平上皮がん、大細胞がんの3つが主なもので、この2つに分けられ、この2つは治療法が異なります。肺がんの85%は非小細胞肺がんであり、日本では肺がん全体の半分が非小細胞肺がんの一つである肺腺がんであることが報告されています。

肺がんが早期に見つければ手術治療が選択されます(非小細胞肺がんではI期、II期、III期の一部。肺がんはその進み具合によってI期〜IV期に

分けられています)。この時期の肺がんは手術でとつてしまおうのが一番予後がよいからです。しかし進行した肺がんでは、そうはいきません。なぜなら、がんが手術で切除できる原発巣(発生した局所のことです)だけでなく、すでにリンパ節や呼吸器以外の臓器(肝臓や脳など)へ転移(これを遠隔転移といいます)しているからです。これら転移したがんもあわせて治療しなければ、治療は意味がないことになり、手術で取り除くことができない微小転移の可能性が指摘されており、術後に薬物治療が行われることがあります。

### ■これまでの肺がんの薬物療法

進行した肺がんに対しては、以前から薬物治療を主体とした治療が行われてきました。これは化学療法と呼ばれるもので、これまでの抗がん薬は「細胞傷害性抗がん薬」が使用されてきました。その名の通り細胞に障害を与えるくすり

がこの抗がん薬ですが、これらはがん細胞をやっつけるだけでなく、大なり小なり正常のからだの細胞にも障害を与えてしまっています。これが多くの副作用の原因となります。抗がん薬の副作用には、脱毛や下痢・嘔吐などの自覚症状だけでなく、骨髄の造血細胞傷害(白血球減少や貧血などのことです)などの重篤な副作用をきたすことがあります。抗がん薬の副作用は肺がん治療の大きな問題でした。そこで登場したのが新しい2種類の治療薬で、できるだけがん細胞を選んでやっつける薬剤です。これには分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬の2つがあります。いずれも進行した非小細胞肺がんを中心に使用されており、このブレークスルー(治療の革命的進歩のことです)により生存期間の延長が期待できるようになりました。なお、小細胞肺がんは現在のところ、細胞傷害性抗がん薬を主体とする治療が行われています。

### ■最近登場した2つの新たな治療法

#### 1. 分子標的薬

肺がんでは遺伝子の変異が多く見つかるようになりまし

た。これは「ドライバー遺伝子」と呼ばれるもので、細胞のがん化に直接関係する遺伝子の変化です。ドライバー遺伝子により活性化した分子の異常な信号が細胞の核内に伝わり、正常な細胞が異常な増殖を始めます。こうしてもとは正常な細胞ががん化していきます。この遺伝子を狙い撃つのが分子標的薬で、最初に登場したイレッサ(ゲフィチニブ。EGFR-TKIという種類に属します)ですが、まだこのメカニズムが解明されていない時期に用いられました。一部の肺がんには非常に効果があつたのですが、重篤な副作用としてときに急性肺傷害である間質性肺炎を生じました。著効があるのは女性、非喫煙者、アジア人種、腺がんであり、一方急性肺障害をきたしやすいのには男性、喫煙者、もともと間質性肺炎がある人、などの特徴が挙げられました。

2004年にEGFR遺伝子というドライバー遺伝子の変異が発見され、イレッサを含むEGFR-TKIという分子標的薬の効果が、この遺伝子の変異の有無を調べることによって予測可能となりました。それからはこの遺伝子変異のある症例に限って、副作

用に十分に注意しながら用いられるようになりました。その後いくつかの重要なドライバー遺伝子の変異が発見されました。2007年には間野博行教授がALK融合遺伝子(EML4-ALK)を報告するなど、わが国もドライバー遺伝子に対する薬の開発で、大きな貢献を果たしています。現在のところわが国では発見された8種類のドライバー遺伝子の変異に対して、20個の分子標的薬が承認されています。

現在では非小細胞肺がんに対して、可能な限り遺伝子検査を行い、遺伝子変異の結果にもとづいて分子標的薬が選択されます。肺癌のドライバー遺伝子を検出する検査として、今のところ組織を用いる2つのマルチ遺伝子検査が承認されています。今後新たなドライバー遺伝子変異が見られれば、その臨床的検査法の開発とともに新たな薬剤が開発されるものと考えられます。

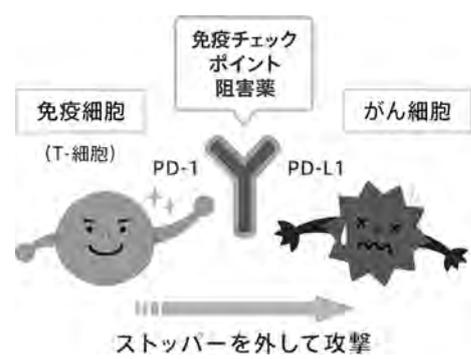
#### 2. 免疫チェックポイント阻害剤(ICPI)

2018年に本庶佑(ほんじよ・たすく)京都大学教授がノーベル生理学・医学賞を受賞

されたのは、おぼえておられるかたもいらつしやるのではないでしようか。簡単に本庶先生の発見をご紹介しましよ

う。遺伝子の変異により不死化した細胞は、がん細胞となります。この細胞はひとが持っている免疫機構により本来排除されるものです。ところが、がん細胞を認識してこれを攻撃するTリンパ球(がんに対する免疫をになっています)の働きが、がんの患者さんでは弱体化していることがわかりました。どうということなのでしょう。それは、がん免疫をつかさどるTリンパ球の細胞表面にPD-1というたんぱく質が顔を出しており、これががん細胞を攻撃する免疫にブレーキ(掲載図ではストッパー)をかけていたのです。するとがん細胞は免疫による攻撃を逃れ、どんどん増えていくこととなります。したがって、このTリンパ球にかかっているブレーキを外せば、がん細胞に対して人の免疫が働きだし、がん細胞をやっつけることになることがわかりました。この研究をもとに、このPD-1に対する抗体、オプジーボ(ニボルマブ)という薬が開発されました。さらには、がん

細胞の表面にはTリンパ球のPD-1と結合するPD-L1というたんぱく質が存在し、両者が結合することでT細胞の働きが低下し、がん細胞がどんどん増殖することもわかりました。そこでこのPD-1、PD-L1という物質を治療の標的として免疫機構のブレーキを解除し、Tリンパ球の機能を回復させることが可能となりました。そのようなくすりのことを、免疫チェックポイント阻害薬と総称しています。対象は非小細胞肺がん、あらかじめがん組織のPD-L1が一定以上存在することを確認したうえで投与されます。現在わが国では抗PD-1抗体薬がオプジーボを含め2種類、抗PD-L1抗体薬が3種類の、併せて5種類が使用されています。ただし、免疫が過剰に働くと自分のからだを攻撃して、自己免疫疾患が出現することがあり、これがこのくすりの副作用につながります。頻度としては少ないのですが、多様な副作用が報告されているので定期的にチェックを行いながら使用されます。



■個別化される肺がん医療

肺がんには組織型、病期、悪性度など様々な違いがあり、それに応じた治療が選択されます。大きくは小細胞がん、非小細胞がん(小細胞がん以外)の肺がんに分け、後者の非小細胞がんについては、さらに個々の肺がんの遺伝子の変異をつきとめ、それぞれの遺伝子変異の種類に応じた分子標的薬を選ぶことが可能となりました。現時点では8個の遺伝子変異についてマルチ遺伝子解析が可能であり、今後多くのドライバ遺伝子がスクリーニングされることになるとでしょう。さらに免疫チェックポイント阻害薬の登場により、PD-L1が多く存在するか否か(免疫染色の強弱で判断します)にもとづいて、この

くすりの適応を検討することも治療の個別化につながります。実際には、ドライバ遺伝子の変異の有無、PD-L1検査の結果により、これら2つの新しい薬物療法に従来の細胞傷害性抗がん薬を組み合わせて、肺がん患者さん一人ひとりの治療戦略が決まっていきます。

■コロナ時代の肺がん治療

コロナ禍の影響により、検診を受診するひとの数が減っています。また、何か症状があってもすぐに病院を受診するひとが減っています。これらの理由で肺がんに関しても新規にがん治療を行う患者さんの数が減っており、今後進行した肺がんの増加が懸念されるどころです。どのがんもそうですが、肺がんは特に、早く発見して早く治療に入ることが重要です。そのためには、胸部レントゲン検査などの定期的な健康診断を欠かすことができません。また、肺がん患者さんは新型コロナウイルス感染症にかかりやすく(一般の人の1.5倍という報告もあります)、また感染するとコロナが重症化しやすいともいわれています。したがって、肺がん患者さんではワ

クチンなどによる予防対策がより重要と考えられます。



✿・✿・✿・✿・✿ **病棟イベント** ✿・✿・✿・✿・✿

**「2023年 夏のイベント実施しました！」**

今年は感染のため、夏のイベント開催が危ぶまれていましたが  
無事8月に実施することができました！

今回のテーマは「ドラえもん と 時間旅行」。地球に生命が誕生したところまで遡り、恐竜の時代、  
人類の祖先が誕生した時代、現代、そして未来…とみんなで時間を旅行していく内容でした。

過去では暗い深海を探検したり、恐竜の足音に合わせて元気に太鼓を叩いたり。

現代では美味しそうなおいのするパン屋さんに来たり。

未来では宇宙人と一緒にキラキラな空間で遊んだり

最後にはドラえもんと一緒に、ハイチーズ★

みんなで時間旅行を楽しむことができました！

秋のイベントもお楽しみに！



(めぐみ棟 保育士 柳有似子)



「キラキラミラーボール」



「太鼓ならまかせろ！」



「このパン、モチモチーッ！」



「ふわふわ暗記パン♪」



「タコ星人と交信中」



「タコ星人に捕まった！」

# めぐみ棟より

## 「紙飛行機大会！」

グループ活動で紙飛行機大会を行いました！

7月の活動で、まずは自分たちで特製紙飛行機を作りま  
す。いろんな折り方があるの  
でどれにするか迷っちゃうな  
〜！



「思いを込めて折ります」

自信作の紙飛行機が完成し  
たら、早速飛ばしたいところ  
ですが、それは8月の活動で  
のお楽しみ(笑)。  
そして待ちに待った8月の  
活動！飛行機を飛ばすには割  
りばしと輪ゴムで作った装置  
を使います。



「この装置を使って飛ばすよ！」

紙飛行機にクリップを取り  
付け、いざ実践！



「気合十分っ！」

最初はなかなかうまくいき  
ませんが、皆さん何回か練習  
するうちにコツを掴んできま  
した。

ぴゅーん！と飛んだ紙  
飛行機は扉をすり抜けてなん  
と詰所の中に！！  
みんな大興奮の楽しい紙飛  
行機大会でした♪

(めぐみ棟)

介護福祉士 犬塚美樹

# ひかり棟より

## 「魚釣り」

夏といえば海！

ひかり棟では、午後からの活動  
で魚釣りゲームを行いました。デ  
イルームに行くと、海に見立てた  
青いビニール上に様々な魚たちが  
泳いでいるではありませんか！！泳  
いでいる魚たちを見て「あれ？見た  
ことある。」と思った利用者もいたの  
ではないでしょうか？

そうです！！今回釣る魚たちは以  
前活動の時間にみんなで制作した  
魚です。ビニール袋にお花紙を詰  
めて一人一人オリジナルの魚を作り  
ました。なかには職員と相談しな  
がらタコやクラゲを制作した方も  
いました。

いざ魚釣りゲームを開始すると、  
みなさん少し緊張しながら釣竿を  
持ちます。



「大物はどれかな？」「〇〇さんが制作した  
魚を釣りますか？」と職員と相談しながら魚釣  
りを行いました。四苦八苦しながらもお目当  
ての魚が釣れると「よし！釣れた！！」と職員と  
一緒に喜びを分かち合いました。釣れた魚を  
見てニッコリ！！みんなで釣れた魚をお披露目  
しゲームを終えました。



今年の夏も猛暑でなかなか外出することが  
できませんでしたが、魚釣りゲームを通して  
少しでも夏を感じることができたのではない  
でしょうか。これからもみなさんが楽しめる  
活動を提供していきたいと思えます。

(ひかり棟)

児童指導員 宇都宮真奈

# 通所で頑張っています

## 「展示ウォークラリー」

各曜日で様々な作品を作り、展示を行いました！  
 コロコロ・トントンスンプや和紙に色染め、ぎゅっと握った形で作ったマグネットなど…  
 素敵な作品が沢山仕上がり、装飾を行いました。

そして、いざ展示ウォークラリーへ♪  
 各スポットを周り、「あ！自分が作ったものだ！」と振り返ることが出来ました。  
 他の曜日で作った作品も見ることができ、皆さんとてもいい表情をされていましたよ！  
 (通所 介護福祉士 平山 咲)



「スポンジスタンプで…」



「とんとんとん♪リズムに乗って」



「和紙に色を付けていきます」



「かわいいミノムシちゃん」



「ピクニック中のトトロたちと一緒に★」



「フィンガーペインティング★」



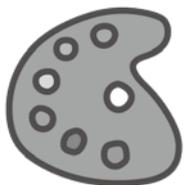
「暗幕を広げるとランプシェードの優しい光がオン」



「美味しそうなおにぎりをどうぞ！」



「ホールの中も展示場に…」



# 重症者ホームひさやまより

## 「開設祭」

今年には新型コロナウイルスが感染症法上「5類」に引き下げられたことを受け、3年ぶりに「開設祭」が開かれました。

利用者の皆さんは久しぶりという事もあり、少し興奮気味の様子で、保護者や見学者の方々も来訪されると緊張しているのかいつもと違う雰囲気を感じ、ソワソワしていました。

開設祭が始まると、お昼はサンドウィッチや中華、からあげ等のオードブルがずらりとテーブルに並べられ、好きなものを自由に選べる事が出来たので、美味しそうにいつもよりも沢山食べられていました。



食後には保護者の方と利用者と共にバルーンアートを作りま

した。お題は「犬」でしたが、皆さん手際が良く、怖がる事もなく風船をひねって、あつという間に完成させていました。完成品を見て利用者さんとても喜ばれている様子でした。

次は花火映像をスクリーンで鑑賞しました。鑑賞している時に、シャボン玉を機械で飛ばすとともに幻想的な雰囲気になり、「おぉ〜!!」とどよめきが上がりました。普段と違う雰囲気も味わい、特別なひとときを過ごせる事ができたのではないかと思います。来年も無事に開催され、楽しいひと時を過ごせることを祈ります。

(重症者ホーム  
介護福祉士 岡村典昭)



## 「東久原七夕祭り」

8月11日、ホームの皆で東久原七夕祭りの櫛太鼓の演奏を聴いてきました。七夕祭りは3年ぶりの開催ということで、利用者さんたちは出発前からワクワクソワソワした様子でした。久々に袖を通す浴衣に着替えて、いざ出発です!



者さんたちはビックリした様子でしたが、少しずつ慣れてくると力強い演奏に耳を傾けていました。櫛太鼓の演奏には地域の子どもたちも参加しており、一緒に楽曲を盛り上げてくれていました。



現地に到着すると、既に地域の方々や祭りの関係者の方が大勢集まっていました。人だかりの中で、利用者さんたちが車イスでの場所取りに難儀していると、地域の方々も積極的に声をかけて下さり、利用者さんのために場所を空けてくださいました。久山療育園は地域の皆さんに支えられて成り立っていると言われていますが、今回それをしみじみと実感しました。

そして18時になり、いよいよ櫛太鼓の始まりです。最初の「彩」という曲が始まったとき、太鼓の「ドンッ」という大きな音に利用

また、曲の合間の時間に、実際に太鼓を体験する機会もありました。小さくさまざまな太鼓が配られて、利用者さんたちは太鼓をじっと眺めたり、叩いてみたりして興味津々の様子でした。太鼓を体験しながら時おり笑顔も見られ、利用者さんたちにとっては新鮮な経験となったようです。

最後の黒田節の演奏が終わった後は、皆で記念撮影をしました。カメラを向けられ少し緊張の面持ちでしたが、楽しい時間を過ごすことができ、皆さん満足気な様子でした。今回の七夕祭りでは、地域の方々やボランティアの方にたくさん助けていただきました。久山療育園を支えてくださる地域社会との繋がりを大切にしながら、利用者さんたちが毎日を楽しく過ごしていけるよう、これからも支援をしていきたいと思います。

(重症者ホーム 介護福祉士 佐伯 諭)

## 2023年開園祭

前号でご案内しましたように、今年の「第47回開園祭」もまた、感染対策の観点からバザーや公開療育・ふれあい等を中止せざるを得ず、9月23日(土・祝)13時30分から、地域交流ホールにおいて、ボランティア、永年勤続職員への感謝を中心とした「感謝礼拝」が開催されました。

限られた集いではありましたが、来年こそは利用者、保護者、ボランティア、職員が皆マスクを外し笑顔で集える「開園祭」を開催できることを願っています。

(開園祭実行委員会)



### ボランティア表彰者

(5000時間) 奈良崎洋子 様

ご都合により欠席でしたが、会場からは温かい拍手が送られました。

### 永年勤続職員表彰者

(敬称略/五十音順)

2030年 山田いずみ  
島津洋昭  
15年 森奈緒美  
10年 入岡陽平、岩下秀俊、古城佳彦、山藤朋子、松川 寛、松永智行、森山由佳、渡辺浩行  
5年 阿南真弥、上野 栞、桐生亜沙美、栗山真由美、成尾正一、宮地紗里



職員を代表して山田いずみさんへの賞状贈呈

### 勤続表彰者の声

#### 勤続30年

勤続30年の表彰をしていただき、ありがとうございます。保育士として入職し、あっという間の30年だった気がします。入職した当時は、赤い三角屋根が特徴の建物でした。入所・通所・児童発達「そら」などを経験し、利用者やご家族と関わる中で、日々楽しく過ごしてきました。たくさんの方との出会い、そして悲しい別れもありましたが、利用者と一緒にたくさん時間を過ごすことが出来、思い出もいっぱいできました。今は毎朝、利用者のみなさんに「おはようございます」と挨拶をしながら顔を見にお部屋をまわるようにしています。利用者さんの元気な声やいろんな表情が私の日々のパワーの源です。30年間楽しく働くことが出来たのは、利用者のみなさんが大好きだという思い、いつも笑顔で支えて下さっているボランティアさんやご家族からいただくパワー、楽しい時も辛い時もいろいろな気持ちを持て共々で支え支えてくれる職場の仲間……たくさんの方々のおかげだと思います。そして、30年間お弁当を作り続けてくれた母にもこの機会に感謝の気持ちを伝えたいと思います。改めて支えて下さったたくさんの方々的心より感謝申し上げます。

(療育指導室 室長 山田いずみ)

#### 勤続20年

私が障がい者支援の道に進んだきっかけは、高校卒業後、社会人として働いていましたが、介護の分野に興味を持ち、そこから介護の専門学校に通いました。もともとは高齢者分野に進もうと考えていましたが、学生時代に障がい者と関わる機会に出会い、久山療育園への入職を志望するようになりました。

初めはボランティアからのスタートでしたので、たくさんの方に支えられている施設であるという事にも早くに気づくことが出来ました。その後、正職員となり、めぐみ棟、ひかり棟で働き、たくさんの方の経験を積むことが出来ました。

今は現場から少し離れた場所ですが、今でも日々、利用者の笑顔に癒され、たくさん学びを得られることが出来ています。

久山療育園で生活されている利用者一人ひとり、また、外来や通所で来られる利用者の方々がより良い生活が送れるように、そして職員の働きやすい環境づくりに向けてこれからも取り組んでいきたいと思っています。

勤続20年表彰、ありがとうございます。

(療育指導室 課長 島津洋昭)

### 勤続10年

「この素晴らしい世界を五感で感じ・意識し、日々の生活の変化や小さな幸せを共に感じ、共に笑ったり泣いたりしていきたい。」

入職当時の想いです。この想いは10年経っても変わることはありませんでした。これまで支えて頂いた利用者・家族・職員の皆様と、これからもたくさんの方の感動と共に体験していきたいと願っております。

これまでのたくさんの方の支援に感謝申し上げます。これから共に過ごす日々が素敵なものになりますように。

(リハビリテーション課 理学療法士 入岡陽平)

「どんなときも笑顔と平常心を失わず、魂が宿った仕事を楽しく行うこと。」

これは、今から5年前の勤続5年に私が未来の自分自身に掲げた目標です。目標はどのくらい達成できたのか。自己評価は、まだまだ道半ばです。

さて、この度永年勤続の表彰を賜り、忘れることのできない喜びとなりました。誠に有難うございました。

時は「光陰矢の如し」と言われるように、あっという間の10年でした。

2013年に事務部に配属となり、総務、設備管理、医事を経て、8年ぶりに総務(人事・給与担当)に再び咲きました。ただ、時間単位年休やフレックスタイム制の一部導入、紙による給与明細書の

廃止や静脈認証による勤怠管理の導入など人事・給与は大きく変貌を遂げていて、日々勉強の毎日です。

今後も利用者様・ボランティアさんの笑顔や皆様の叱咤激励に感謝しつつ、健康に留意して、明るい未来に向かって前進したいと思えます。

(事務部 事務員 古城佳彦)

### 勤続5年

この度は永年勤続表彰を頂きありがとうございます。ありがとうございました。

入職前、久山療育園を知り「共に在る」という理念に共感し、入職後は「利用者の生活・人生と共に在る」ということを念頭に利用者との関係を築くように心がけてきました。

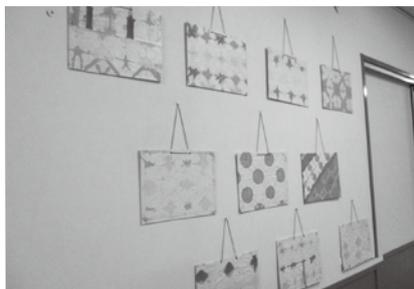
「利用者の支援という形で利用者の人生を支え、利用者の笑顔や反応が私の心を支えてくれる」という環境の中で、「共に在る」ということを実感し、忙しいながらも充実した日々を過ごすことができている。それは職域を超えて上司、諸先輩、同僚、後輩といった仲間に恵まれたおかげであり、私たちを信頼して下さっているご家族の皆さまのおかげでもあると思っております。

未筆ながら利用者、ご家族、職員、久山療育園に関わる皆さまから感謝申し上げます。ありがとうございます。

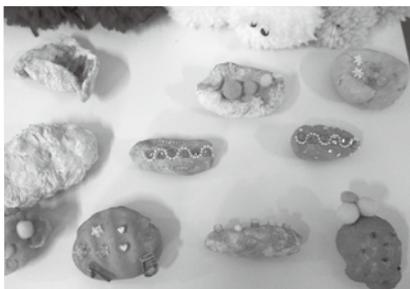
(ひかり棟 介護福祉士 成尾正一)

## ぎやらい

本紙10頁「通所で頑張っています／展示ウォークラリー」で通所利用者の皆さんが職員と力を合わせて制作された作品の一部をご紹介しますのでお楽しみください。



和紙に色染をしました



握った形で作ったマグネット



和紙に色付けモビールを作りました



かわいらしい蝶の標本



手作りカレンダー



トンボが飛んできました

# ミットレーベン・ネットワークより

## 「共に生きる」汗を流した！

8月11日(金・休日)に、昨年  
に続いて久山療育園で、主に北  
九州・筑豊・福岡地区の教会  
から約60名が参加して、草刈り  
や窓拭きのワーク作業を行っ  
ました。

職員住宅がある駐車場側と、  
療育園側の広場の草刈りが中  
心です。昨年は昼まででした  
が、今年は暑い中で熱中症が心  
配されましたが、午後まで頑張  
り、大きな事故もなく無事に終  
わることが出来ました。



「コロナ」のため療育園の中  
に入ることができない私たち  
のために、午後には利用者の方  
が4名も出てきてくださり、  
「触れ合いの時間」を持つこと  
ができました。  
昼食はスタッフが準備した  
カレーを食べ、午後にはスイカ  
も食べることができました。  
これだけ大勢の人たちが、こ  
の酷暑の中、時間を割いて参



加してくださったことを嬉しく  
思います。同時に、黙々と手を動  
かして働いている姿には感動を  
覚えました。参加した子供たち  
には夏休みのいい思い出になっ  
たのではないのでしょうか。重症  
児者と久山療育園を覚え、共に  
いい汗を流した1日となりました。

(重症児者と共に生きる

「ミットレーベン・ネットワーク」

会長 伊原幹治

# 2023年度 クリスマスについて

12月13日(水) 予定の「入所クリスマス」、同じく14日(木) 予定の「久山療育園クリスマ  
ス(燭火礼拝・聖歌隊)」につきましては、現在その実施と開催形式について検討中です。  
大変恐れ入りますが、ご案内までしばらくお待ちください。  
尚、通所クリスマスにつきましては、通常の活動の中で曜日ごとに実施する予定です。



### メモ帳

- 【7月】▽19日 福岡特別支援学校1学期終業式
- ▽24日 経営会議
- ▽27日 福岡東労働基準監督署  
現地調査

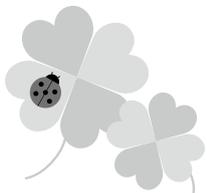
- 【8月】▽1日 久山町 災害時在宅生活者避難受け入  
れに関する協議のため来園
- ▽3日 福岡県北部地区  
在宅重症児者連携会議・ユア会議(Zoom)
- ▽4日 西日本施設協議会2023第7回合同委員会  
(Zoom)
- ▽5日 認定看護師研修運営会議
- ▽7日~8日 第37回バプテスト社会福祉事業団体連  
絡協議会職員研修会
- ▽11日 ミットレーベン・ネット  
ワーク主催ワークショップ(草刈り)
- ▽18日 誕生会
- ▽21日 経営会議
- ▽22日 久山町 社協情報交換会
- ▽22日~23日 夏祭り
- ▽25日 2023年度第二  
回 理事会
- ▽28日 九州厚生局適時調査
- 【9月】▽4日 福岡特別支援学校2学期始業式、バプ  
テスト社会福祉事業団体連絡協議会理事会(Web)
- ▽5日~7日 久山中学校 職場体験
- ▽6日 TN  
Cテレビ西日本 通所取材のため来園
- ▽8日 ながい  
ろの会(敬老のお祝い)
- ▽9日 認定看護師研修運営  
会議
- ▽11日 経営会議
- ▽20日 久山町 福祉基本  
計画策定委員会
- ▽23日 開園祭(感謝礼拝)
- ▽24日 施設見学会

### 職員の異動

(2023/7/1~9/30)

【採用】

- 7/1付
- ▽佐伯香奈美(事務員)
- 8/1付
- ▽関 友梨亜(療育員)
- 9/1付
- ▽押谷 直樹(看護師)
- 9/20付
- ▽藤井 陽子(看護師)





# ボランティアだより

## 「一歩ずつ、ゆっくりと」

新型コロナウイルス感染症が5類への移行後より日常生活における緩和が継続しています。しかし、新型コロナウイルス感染症が終息したわけではなく、以前ほどではないですが、まだまだ油断できない状況であり、重症心身障害児者にとって脅威であることに変わり有りません。その様な中でも、ボランティア活動は感染対策を行いながら、継続することが出来ています。

最近ではボランティアの皆様より「この作業はどのように使われているのか?」「作業で制作した飾りが増えるようになってくるのか?」等々に対しての質問が増えてきました。ボランティア室に掲示している写真を見てもらっていましたが、先日の夏祭り当日の水曜日、利用者と触れ合うことは出来ませんが、保育士に依頼して、夏まつりを利用者が体験したようにアナウンスも含めながらボランティアさんに疑似体験してもらおう機会を持つことが出来ました。とても喜ばれていた様子が印象に残っています。

まだまだ一緒に活動に参加するところまでには至っておりませんが、「一歩ずつ、ゆっくりと」進むことが出来ているのではないかと思います。今後も継続して、出来ることから取り組んでいきたいと思えます。

それともう一つお知らせです。10月28日(土)にボランティア講習会の開催が決定しました。感染症対策として時間は13:30~15:30と短時間ではありますが、新規のボランティアの開拓と、久山療育園の事を知ってもらうためにも開催を決定致しました。申し込みはホームページのQRコードもしくは、代表電話での受付を行います。コロナの状況によっては変更、中止も考えられますが、久しぶりの再開にドキドキしています。こちらにも「一歩ずつ、ゆっくりと」日常に変化を

与えられるように取り組んでいきたいと思えます。ご都合の合う方は是非とも申し込みをお願ひします。  
(ボランティア委員長 島津洋昭)



### ボランティア講習会のお知らせ

<http://hisayama-smid.jp/news20230915-2.html>



### 歩 行 器

8月にミットレーベン・ネットワークより草刈りのご奉仕を賜りました。日ごろ手つかずの雑草が一気にきれいになり、大変助かりました。心より感謝申し上げます。中には、根が深く入り抜くのも一苦労といった場所もあり、皆さん額に汗して取り組んで下さいました。その名の通り「ミット・レーベン(ドイツ語)、共に生きる」活動を実践しておられますことに、感謝申し上げます。広い敷地に、子供から大人まで約60名程の方々が、共に汗を流し、作業を進めて下さいました。新型コロナウイルスの感染防止のため、建物内に入る事が制限され、重症心身障害児者の方々の生活の場には立ち入ることが出来ませんでした。中からは、中庭の草刈りをして頂いている人たちの姿がよく見えています。夏の日差しが厳しい中、適度に休憩を取りながら黙々と作業をすすめておられました。直接触れ合うことはできなくとも、その時、その場所を一緒に過ごすことが「共に」となり、お疲れ様・ありがとうといった気持ちを抱くことが「共に」へと繋がっていると感じました。「愛の手を」をご覧になっている方も、紙面を通して思いが「共に」と

なっていることに感謝申し上げます。

この夏は、敷地全体の植栽の整理を進めました。いつの間にか大きくなり過ぎ、フェンスを潜り抜けて成長している木々など思い切って伐採しました。やはり樹木も生き物で、毎日の手入れはそれほど必要とは思われませんが、年単位で見ると、確実に成長しています。久山療育園の歩みももうすぐ50年になるうとしています。毎日の変化には気付きにくいものですが、創設理念が日々継承され着実に成長しているのだと改めて感じました。

(T・N)

重症心身障害施設  
久山療育園ホームページ  
<http://hisayama-smid.jp/>



### 求人情報

